

# 桜 生 工

## 2016 日本大学生産工学部校友会誌

### CONTENTS

#### ごあいさつ

生産工学部校友会会長 高野 和雄 ..... 2

生産工学部学部長 落合 実 ..... 3

平成28年度 生産工学部校友会 代議員総会 ..... 4

平成28年度 生産工学部校友会 代議員総会 懇親会 ..... 5

落合 実 生産工学部長 日本大学副学長就任祝 ..... 6

工科系校友会 連絡会 ..... 6

第28回 母校を訪ねる会・桜泉祭 ..... 7

第11回 日進会(教職員・校友会合同)ゴルフコンペ ..... 7

第9回 風力発電コンペ ..... 8

2017年度 キャンパスガイド表紙デザインコンペ ..... 8

#### OB紹介

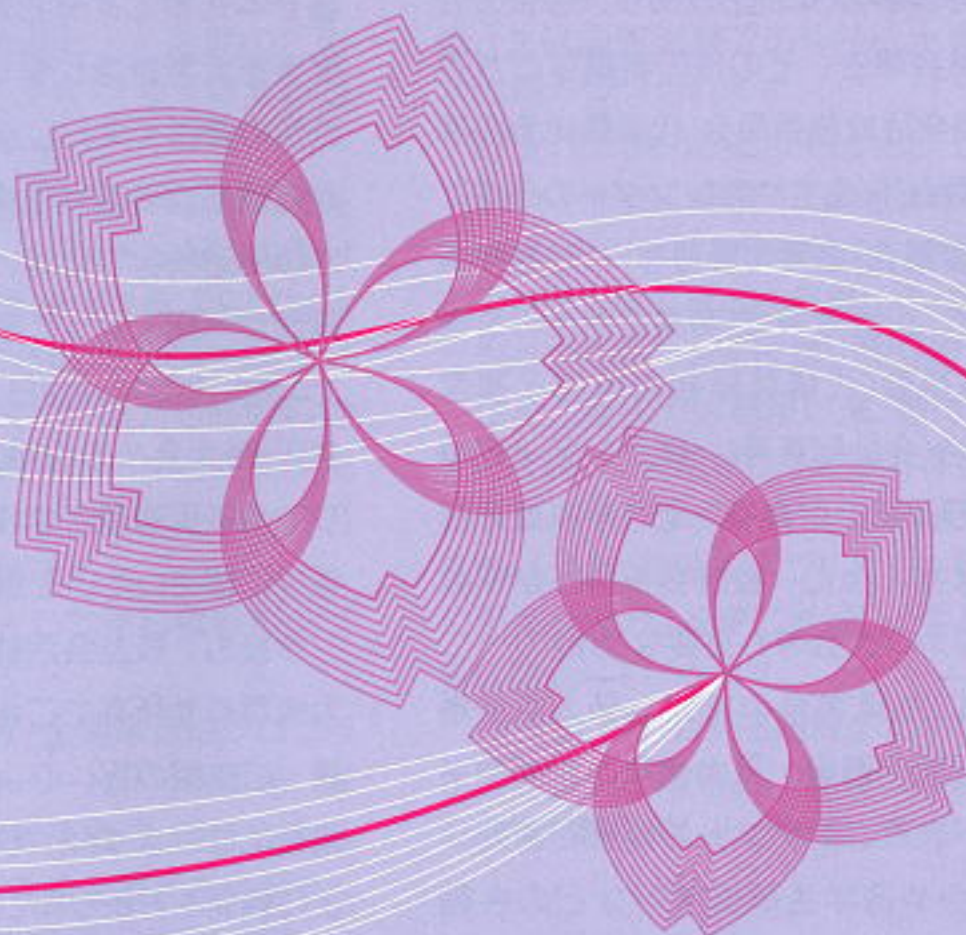
東京都板橋区長 坂本 健 ..... 9

床空間計画 提案室 取締役 関人と古民家 代表取締役 牧野嶋 彩子 ..... 10

ビジネスサポート株式会社 代表取締役 社長 後藤 敦 ..... 11

学科ニュース ..... 12

箱根駅伝 ..... 16



## 高野 和雄 生産工学部校友会会長



日本大学生産工学部  
校友会 会長

高野 和雄

校友の皆様におかれましては、益々ご清栄、そして、ご鞭撻の趣、心よりお慶び申し上げます。また、日頃は校友会活動につきまして格段のご理解とご協力を頂き、感謝致しております。

今回は日頃の校友会活動をご紹介させて頂きたいと思います。第一に代議員総会が挙げられます。この代議員総会は毎年6月に各学科の代議員が一同に会し、一年間の校友会活動の報告並びに次年度の活動計画などが議論されます。総会後の懇親会には代議員の他にも日本大学理事長、学長、各部科校および各地方の校友会の会長、さらには留学生、新しく代議員になったばかりの卒業生などを招待して盛大に行われます。代議員総会・懇親会の他にも常任幹事による運営協議会(年5回)と幹事による幹事会(年3回)があり、会長の公務報告、各委員会報告、その他の審議などが行われます。委員会は総務委員会(代議員総会の準備等)、広報委員会(桜生工やカレンダーの作成と発行等)、名簿委員会(名簿の管理等)、財務委員会(資金管理等)、企画委員会(卒業記念品の企画等)、事務局委員会(代議員総会の準備と運営等)、監査委員会(会計監査等)、ボランティア委員会(就職支援等)の8つがあり、それぞれが活発に活動しています。また、校友会役員と学部教職員との親睦ゴルフ大会等も重要な活動の一つです。この他にも奨学金の給付、新入生や優等卒業生への記念品贈呈、風力発電コンペやキャンパスガイド表紙コンテストの審査と補助、母校を訪ねる会や留学生研修旅行などの各種

行事へ補助等をしており、本校友会は学部と一体となって生産工学部のために活動しております。なお、今年の母校を訪ねる会は桜泉祭(旧泉祭)2日目の11月6日(日)津田沼校舎で開催されました。今年度は、昭和41年、昭和51年、昭和61年、平成8年、平成18年の卒業生の皆様をご招待し、参加頂いた皆様には在学当時の旧友や教職員との再会を楽しんで頂きました。

直近の嬉しい話題をいくつかご報告致します。まず、生産工学部についてですが、落合実生産工学部長(生産工学部校友会名誉会長)が日本大学副学長(研究・産官学連携知財センター・学術情報担当)に就任されました。生産工学部のみならず、日本大学の大事な舵取りの大役を担っております。また、6月26日(日)に開催された第57回全日本理工科学生柔道優勝大会で本学部柔道部が団体戦で3位に入賞致しました。

次に、日本大学に目を向けますと、私が委員長を務めますスポーツ振興で、生産工学部野球場を本拠地とする日本大学野球部が平成28年度東都大学野球秋季リーグ戦で12年ぶりに23回目の優勝を果たしました。しかも、全対戦校から勝ち点を挙げる完全優勝です。11月29日に津田沼校舎で監督、選手、マネージャー、教職員が一緒になって祝賀会が開催されました。その他にも毎年1月2日・3日に行われる箱根駅伝第93回大会への出場が決まりました。ぎりぎりでの予選通過となりましたが、選手たちの頑張りに期待したいと思います。

今後も、校友会活動を通じて母校の発展に尽力を尽くす所存でございますので、倍旧のご指導、ご支援の程、心よりお願い申し上げます。最後になりますが、校友の皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

## 落合 実 生産工学部学部長



日本大学生産工学部学部長  
生産工学部校友会名誉会長  
落合 実

校友の皆様におかれましてはますますご健勝で活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。

生産工学部では校友（卒業生）の皆さんの活躍が社会で高く評価されていることが発展の礎であり、加え

て、校友会からの直接的なご支援とご協力が更なる発展に繋がっております。感謝とお礼を申し上げます。

そこで、校友会から賜っております支援の一部を紹介いたします。学部行事である風力発電コンペ、キャンパスガイド表紙コンテスト、留学生研修旅行、桜泉祭、母校を訪ねる会などへの補助、入学生や優秀卒業生への記念品贈呈、鳥人間コンテストや優勝運動部をはじめとした学生の部活動などへの活動費補助、等々です。そして最も大きな支援は「生産工学部校友会奨学金」です。これは数十年前に莫大な基金を賜り、その利息を経済的に困窮した学生への奨学金としています。加えて2012年の創設60周年記念事業でも多額のご寄附を頂戴しましたので、この寄付金を校友会奨学金に組み入れて給付しています。

このような支援の他に、校友の皆さんからは生産工学部の特徴科目である「生産実習」の受け入れ、そして学生への特別講演や就職活動に対するご支援、等々、多方面でお世話になっております。このような学生へのご支援とご協力も高野和雄会長ならびに石井進相談役をはじめとする校友会役員そして校友の皆様のご理解があつての賜です。改めて御礼申し上げます。

ここで学部の近況報告として学科横断型のプログラムを紹介します。

本年度から「事業継承者・企業家育成プログラム(Entre-to-Be;アントレトゥービー)」を開始しました。これは将来、親の会社を継ぐ、自分の会社を持ちたいなど、事業継承者や企業家を目指す人材に必要なスキルを身につけるプログラムです。こ

のプログラムは日本大学商学部との学部連携プログラムであると共に、現役の経営者が実務経験等を学生に伝える産学連携型となっています。生産工学部では創設時から「経営管理能力を備えた技術者の育成」を目指していますのでこのプログラムがそれを具現化した一つです。また、このプログラムは他の工学系学部には類を見ない、生産工学部唯一のものと自負しており、このプログラムを通して経営者・社長の気持ちがわかる技術者が多く育つことを期待しています。

また、昨年度はグローバル時代に対応すべく、世界でたくましく活躍できる力を身に付けたい学生のために「グローバル人材育成プログラム(Glo-BE;グロービー)」を開始しました。昨年度このプログラムを受講した学生は今春、海外研修にも参加し、更に上級ステージの2年次プログラムに入っています。

一方、グローバル化に向けては日本技術者教育認定機構(JABEE;ジャビー)が認定するプログラムもその一つです。これは教育プログラムの内容と水準が国際的に通用する技術者の教育として適切であると認定されたもので、生産工学部では、現在、電気電子工学科、土木工学科、応用分子化学科そして数理情報工学科の4学科で認定プログラムのコースがあります。なおこのプログラムの修了生は国家試験である技術士資格試験の第一次試験が免除されます。

以上、Entre-to-Be、Glo-BE、JABEE、これら「3ビー」を更に発展・充実させると共に、社会が求める、グローバル化を含めた社会の多様化に対応できる人材の育成を目指して、教育の質の保証と向上のための教育改革に取り組んでいます。

生産工学部では創設以来、特徴を持った教育・研究を通して経営がわかる技術者を育成しており、企業後継者が多く卒業し、その子弟も卒業しています。伝統と特徴を生かした「生産工学部らしさの創造と実践」を更に推進し「生産工学部」を社会に発信していきます。

今後も生産工学部発展のために校友会、卒業生の皆様のご理解とご支援、ご協力を賜りたく、心よりお願い申し上げます。



## 平成28年度 生産工学部校友会代議員総会 懇親会



ご挨拶された高野和雄生産校友会会長



ご挨拶された石井進生産校友会相談役



懇親会



ご招待した留学生達

平成28年度 生産工学部校友会代議員総会懇親会は河原和人電気電子部会長による開会の辞、そして、校歌斉唱の後、高野和雄生産工学部校友会会長のご挨拶がありました。生産工学部校友会からの寄付金は生産工学部奨学金基金1億2,000万円と本部校友会日本大学創立130年記念事業1,000万円とを合わせて合計金額1億3,000万円になりました。学生の為にこれからも全力を尽くして行きましょうなどのお話をされました。

次に、石田秀樹日本大学理事長代理・校友会会長代理からは、本部校友会のこれからの事業などのお話をいただきました。落合実生産工学部長（日本大学副学長）からは生産工学部のこれからの事業、今年度、卒業生の就職率と生産実習などのお話をいただきました。石井進日本大学常務理事・生産校友会相談役の乾杯で懇親会に入りました。今年度の生産工学部校友会代議員総会および懇親会には215名の方々ご出席頂きました。今年も多数の留学生を招待しました。

室木正春土木部会長の中締、そして、上田浩司マネジメント部会長の閉会の辞で楽しい懇親会はお開きとなりました。

## 落合 実 生産工学部長 日本大学副学長就任祝

落合実生産工学部長の日本大学副学長への就任を祝う会が、平成28年4月22日(金)、帝国ホテル富士の間において催されました。午後6時より開催された祝賀会には、田中英壽日本大学理事長、大塚吉兵衛日本大学長、石井進日本大学常務理事をはじめとご来賓25名、ご来客42名、卒業生194名、教職員179名、総参加者440名のご列席がありました。はじめに、発起人代表として、高野和雄日本大学理事・生産工学部校友会会長より開会の辞があり、次に、田中英壽日本大学理事長、大塚吉兵衛日本大学長の祝辞がありました。引き続き、ご来賓ならびに生産工学部執行部のご紹介の後、落合実新副学長と令夫人へ、職員の鈴木恵子さんと中川かずみさんより花束の贈呈が、劉明德中国科技大学管理学院長ならびに徐淵静台湾日本大学校友会理事長よりそれぞれ記念品の贈呈が行われました。落合実新副学長からは、謝辞として副学長としての抱負が述べられました。続いて、逆井彰生産工学部事務局長の乾杯のご発声により祝う会が開宴されました。宴は落合実新副学長を囲んでの談笑や今後のご活躍を期待する声など、終始和やかにかつ盛大に催されました。最後は、石井進日本大学常務理事の閉会の辞で中締めとなりました。



## 工科系校友会連絡会

第34回日本大学工科系校友会連絡会が平成28年8月27日(土)、日本大学生産工学部39号館6階スプリングホールで開催されました。4学部校友会幹事約40名が参加。座長に生産工学部校友会 上田浩司副会長が選出され、正会員拡充への積極的な取り組み、校友子女入学試験の推進等について話し合いました。懇親会にご来賓として石井進日本大学常務理事、落合実生産工学部長、本橋重康薬学部長、山本寛理工学部長、出村克宣工学部長、逆井彰生産工学部事務局長、齋藤正道薬学部事務局長、加藤和英理工学部事務局長、河野通隆理工学部事務長に出席していただきました。当番校である高野和雄生産工学部校友会会長の開会の辞ではじまり会は和やかな祝宴になりました。最後に次回当番校である内倉和雄薬学部校友会会長の閉会の辞でお開きとなりました。



## 第28回母校を訪ねる会・桜泉祭

生産工学部では毎年桜泉祭（旧泉祭）の時期（今年度は11月5日～11月6日）に「母校を訪ねる会」を開催し、皆様をご招待申し上げております。今年度は卒業50年（昭和41年卒業）、卒業40年（昭和51年卒業）、卒業30年（昭和61年卒業）、卒業20年（平成8年卒業）及び卒業10年（平成18年卒業）を経た皆様を対象に第28回「母校を訪ねる会」を開催致しました。懇親会は39号館2階食堂で行なわれました。室木正春土木部会長の開会の辞で始まり、落合実生産工学部長、高野和雄生産工学部校友会会長、石井進生産工学部校友会相談役の順にご挨拶頂きました。逆井彰生産工学部事務局長の乾杯の音頭で懇親会が始まり、OBの方々とご家族が在学当時の先生方はじめ教職員との懇談やお互いの旧交を深めました。



母校を訪ねる会懇親会



桜泉祭

## 第11回日進会（教職員・校友会合同）ゴルフコンペ

平成28年10月4日（火）日本大学創立記念日 山武カントリー倶楽部に於いて、生産工学部教職員と生産工学部校友会幹事等で合同ゴルフコンペを20組で開催致しました。競技方法は18ホール新ペリア方式・上限なし（同ネットは年長者上位）で行われました。個人戦優勝は山中茂己さん（教職員）準優勝は水口和彦さん（教職員）、3位は金塚茂さん（教職員）でした。団体戦優勝は教職員、準優勝は土木部会、3位は電気電子部会でした。天候にも恵まれ今年も教職員と校友会が仲良くゴルフを満喫し和やかに表彰式と祝宴が催されました。次回、幹事は教職員です。



## 第9回風力発電コンペWINCOM2016

平成28年11月6日(日)、津田沼校舎37号館8階にて第9回風力発電コンペWINCOM2016が開催されました。今年度は全26チームに参加いただき、発電量部門・エネルギー利用部門ともに大盛況のうちに無事終えることができました。

最優秀賞には千葉県立下総高等学校チームの「SHIMOFUSA Wind-power type H ver.菅澤君」日本大学生産工学部校友会賞には、日本大学大学院生産工学研究科チームの「ツインシュミット」、日本風力エネルギー学会賞には、山形県立山形工業高等学校チームの「YAMAKO-T-2016」が選ばれました。来年度は第10回の記念大会となります。さらに盛大な大会となるようスタッフ一同一丸となって取り組む所存ですので、今後とも応援の程宜しくお願いいたします。



## 2017年度キャンパスガイド表紙デザインコンペ

平成28年11月6日(日) 津田沼校舎39号館1階ギャラリーで2017年度キャンパスガイド表紙デザインコンペ作品審査を行いました。



最優秀賞に「n」 山崎 海さん(建築)  
優秀賞に「KATACHI」 町田 和也さん(創生)  
優秀賞に「未来につなげるこのピース」 櫻井 勇真さん(創生)  
が選ばれました。最優秀賞の山崎さんの作品が来年度のキャンパスガイドの表紙になります。作品には3つのキャンパスの風景が描かれていますが、そのうちの1つが採用されます。



## OB紹介

東京都板橋区長 坂本 健

(1985年 大学院生産工学研究科  
博士前期課程建築工学専攻修了)

私は学生時代に東北沿岸域を対象にした、「沿岸地域における環境形成に関する基礎的研究」を卒論と修論のテーマに取組みました。のちに、東日本大震災が発生した際には、板橋区はいち早く被災地への支援を開始、岩手県大

船渡市への物資輸送・職員派遣を行い「連携協力協定」を締結しました。現在も職員派遣による復興支援を継続しています。この経験が、現在の安心・安全なまちづくりに大きく生かされています。設計会社に入社後は、川崎市立川崎病院の設計をはじめ、幕張新都心計画への参画など、専門家が結集した大型プロジェクトに関わる経験を通じてマネジメントを学ぶとともに、様々な関係者との間合いも会得しました。

その後、生家が関わる特養ホーム開設や幼稚園運営に関わるという、経営の立場に身をおくこととなり、介護や幼児教育の現場も窺い知ることができました。板橋区議会議員だった父の遺志を継ぎ政界に転身し、2005年7月から東京都議会議員として、耐震偽装事件の原因究明等に取り組みました。そして、都議の任期半ばで板橋区長選挙に立候補することとなり、2007年4月に第17代板橋区長に就任。現在に至っています。区長として、これまでの技術者・経営者の知見を、まちづくりや産業振興、企業・大学との連携などに最大限活用しています。現在の主な取り組みを紹介します。一例目は建設当時東洋一と言われた高島平団地を中心とした地域の「都市再生」です。2015年には都市再生の方向性を示した「高島平地域グランドデザイン」を策定しました。本年は中立的な専門家主導のもとで多様な主体が連携してまちの将来像を描き、実現するまちづくりのプラットフォームとして、アーバンデザインセンター高島平（通称：UDCTak）が活動を開始します。民・学・公が連携して知恵と工夫を生み出し、高島平地域が健康で暮らしやすいまちの全国モデルとなることをめざします。二例目は「産業の振興とブランド化」です。板橋区は55万人が生活し、都区内トップクラスの工業集

積、商業の賑わいと緑豊かな農業の息づく地域です。この強みをさらに活性化するため、基盤整備や担い手づくりなどを推進しています。その一環として、区が歴史的に強みを持つ光学・精密機器産業を世界にアピールし、「光学の板橋」のブランドイメージを確立するため、2012年ロシア・サンクトペテルブルグ市で開催された「光学設計・製造に関わる国際会議（ODF）」で自らプレゼンし、ODF 2014板橋大会として招致することができました。三例目は近年複雑化している行政課題の解決に不可欠であり、重点的に取り組みを進めている「地域・企業・大学等との連携」です。本年8月には「日本大学医学部・生産工学部との連携に関する基本協定」を締結しました。この協定は互いに持つ人的・知的・物的資源を有効に活用し、包括的に連携・協力することにより、教育・学術研究の発展及び活力ある地域社会の形成に寄与することを目的としています。具体的な



基本協定締結

取り組みとしては、学生・教員の区事業参加や区内有力企業へのインターンシップ受入れのほか、区の友好交流都市イタリア・ボローニャ市にあるボローニャ大学に生産工学部准教授の中澤公伯先生を共同研究のために派遣する際の協力などがあります。中澤准教授とは関東学生景観デザインコンペを一緒に創設し、第1回大会を高島平で開催したというご縁もあります。生産工学部と区とのつながりを、さらに深めていきたいと考えています。私は、区長就任当初から「もてなしの心」で区民本位の区政を実現するため、高い使命感をもって挑戦する人と組織づくりを進めてきました。今後も、技術者出身の区長として、区政経営に邁進していきます。



ODFにおけるプレゼンテーション

## OB紹介

(株)空間計画提案室取締役  
(株)人と古民家代表取締役

牧野嶋 彩子 (建築工学科 平成7年卒業)



ゼネコンに勤めていた父の影響で中学時代から建築に携わる仕事をしたいと考えていました。私が大学に入った年に建築工学科に女性30人が集まる居住空間コースができ、一期生として入りました。卒業後は大学で講師を

していた杉浦伝宗先生のアトリエに入りました。8年間勤め、出産を機に独立をしました。それから住宅設計を中心に主人と一緒に夫婦で設計事務所を営み、今年で14年目を迎えます。今までは新築の設計監理が中心でしたが、今年、千葉県内の空き家になった古民家を再生し保存する為の会社を立ち上げました。(株)人と古民家という、まさしく古民家を扱う会社です。大学を卒業してから教授や講師の先生方と同窓会でお会いすることはありましたが、最近では古民家の事業で先生方とお会いして、一緒にお仕事をしたいと思うようになりました。そして、大学での学びの環境がいかに素晴らしかったかと思い出されます。学生時代は環境や、先生達の素晴らしさはまだわかっていませんでした。社会人になって仕事をしていくうちに、大学での学びがいかに楽しく大切だったか思い知らされます。そして今、先生達と一緒にお仕事が



工事打ち合わせ風景(居住コース出身のスタッフと現場監督と職人)

できることは大きな喜びです。また、古民家の事業の為に社員として入社してくれた女性スタッフは居住空間コースの後輩です。前職を投げ打って、古民家事業に参加してくれました。また古民家の図面を描いてもらっている方も居住空間コースの後輩です。卒業してからずっと縁が続き、また新たな縁が生まれ、人と人の巡り合わせに感謝しています。今手掛けている古民家事業は千葉県夷隅郡大多喜町の築130年になる古民家の設計監理業務がきっかけでした。空き家になった古民家を親族が使うゲストハウスするという計画で現在工事中です。この仕事がきっかけで大多喜町に縁が

でき、江戸時代末期に建てられた築200年になる古民家を会社で購入しました。これから大多喜町の方々のお力を借り、宿泊施設に改修して、地域の方を雇用し、過疎化した町に新たな人の流れをつくり町を活性化させていきたいと考えております。オリンピックを控え、地域創生の流れがある中、古民家を起爆剤とした町おこしは大きな意味のある事業だと思います。また大多喜の方々と話をすると地方都市の問題はとても根深いと感じます。住民は高齢化しており跡取りがおらず、どんどん住民が減ってしまっている。農地や田んぼも管理する人がいなくなって余ってしまっている。この現状を見ると日本の里山や風景、大工の技術が



現在工事中の大多喜町の築130年の古民家

集結した古民家がどんどん失われてしまうという危機感を感じました。日本人は日本の文化の素晴らしさにもっと目をむけるべきだと思っております。この大多喜プロジェクトがきっかけで、古民家による町おこしが千葉県全体に広がり、千葉県の活性化に繋がるようにしていきたいとスタッフと一緒に毎日汗をかきながら仕事をしています。

アトリエ時代にいつも考えていたこと、「社会に対し自分は何ができるのか？何を残せるのか？」その答えが卒業して20年経ち少し見えてきました。

自分は自分の持つデザイン力で社会や地域に貢献できたらと。日本文化の保存、再生、継承、そして大多喜町の方々が喜んでくれるような事業に育てたいと思っております。



築200年大多喜古民家(宿泊施設予定)

## OB紹介

ビジネスサポート株式会社  
代表取締役 社長

後藤 敦（電気工学科 昭和55年卒業）



私が生産工学部電気工学科に入学した時の思い出は、当時はまだ実務校舎は無く、1年次は北習志野の理工学部校舎（現船橋キャンパス）に通ったことです。新

京成電鉄北習志野駅より20分かけて歩き、周りも畑が多く、田舎の大学に通った感じがしました。2年次より大久保校舎へ移り、勉強は強弱をつけて励み、卒業研究では照明工学の大谷先生に指導を受けました。研究室での思い出は、仲間との卒業研究と研究室旅行です。特に研究室旅行では、藤原研究室の先生と仲間と一緒に北海道を旅行したことが大きな思い出です。大谷先生には勉強だけでなく、「仲間の大事さ」「社会へ出てからのこと」「母校を大事にすること」など数々の教えを頂きました。このことは、社会に出て非常に役に立ちました。私たちOBはその教えで、大谷研究室OB会を30年近く毎年開催しております。現在で30回近くになりました。OB会では、先生を交えたOB相互の親睦と仕事の状況、昔話など充実した会となっております。無事に昭和55年3月には卒業をして、4月には当時の日本電信電話公社（現NTT）へ入社いたしました。電電公社では、電話交換機の保守の仕事を担当させて頂きましたが、会社もNTTに変わったところ、仕事内容の変革が始まり、コンピュータの出現による、業務のコンピュータ化、システム化への改革の時代になりました。私も、それに従いシステムエンジニアの道に進みました。職歴では、コンピュータシステム関係のSE、NTT学園での教官、プロジェクトマネージャー、アカウントマネージャー、コンサルタントをさせて頂き、多くのキャリアを積み重ねることができました。特に、学生時代に教わりました、「仲間の大事さ」「社会へ出てからのこと」「母校（会社）を大事（愛する）こと」は、社会人として非常に役に立ち、職務を全うできたのはこの為だと感じています。NTTの関連会社を含め、平成20年（55歳）にNTT関連の仕事を終えました。その後会社を起業し、現在は「情報システムの開発・構築・コンサルティング」、「植物工場開発・構築」、「携帯電話感

受装置作成・販売・構築」、「ミャンマー進出支援」の4つの仕事をしております。「情報システム関連」「植物工場関連」「携帯電話感受装置関連」では、NTT時代に培った技術で、コンサルティング・システム開発・NW構築、業務改善などを手掛けさせて頂いております。「ミャンマー進出支援」は、日本大学校友会活動で知人となりました、河原和人氏の御紹介で、NPO法人日本ミャンマー交流協会様と一緒に、ミャンマーへ進出する企業の支援を実施しております。日本ミャンマー交流協会は、日本大学石井進常務理事先生が理事長です。直近の活動では、2016年4月には、ミャンマー連邦のヤンゴンにて、日本中小企業技術展示会を主催開催しました。時期的にアウンサンスーチーさんの新政権が発足したばかりの開催で、ミャンマーへの進出に興味のある日本の企業が多数参加しました。今年で大学を卒業してから38年になります。学生時代は、つい先日のような



展示会参加者とミャンマー大手銀行訪問

な気がしています。昭和55年に就職してからの人生を振り返ってみますと、大学時代に研究室で教わったことは大変社会で役に立ち、しっかりと仕事ができるようになりました。とても感謝しております。また、NTT時代も含めて、周りには多くの日本大学卒業生がおり、その仲間との仕事では様々な経験ができました。現在は、私だけではなく家内も日本大学の素晴らしさを感じ、夫婦二人で、「子供たちもぜひ日本大学へ」と思い、息子と娘も日本大学へ進学させました。息子は、理工学部海洋建築学科の大学院2年に、娘は芸術学部演劇学科3年に在籍しております。特に娘は、応援リーダー部（チアリーディング）に所属し、毎日の練習と野球部、アメフト部、陸上部駅伝チームの応援に明け暮れています。家中、日本大学で染まっていますが、明るく楽しい家庭です。今後も家族全員で、日本大学を応援しようと思っています。



日本大学応援リーダー部メンバー

## 機械工学科

【学生数】学部808名 大学院(前期)62名 大学院(後期)8名

【人事】今年度は網島均教授が主任、高橋進教授が専攻主任として学科運営に携わっております。また、安藤努先生が教授、坂田憲泰先生が専任講師、柳澤一機先生が助教にそれぞれ昇格されました。平成27年11月には長年、教育・研究に御尽力された邊吾一教授がご退職されました。



安藤努教授



坂田憲泰専任講師



柳澤一機助教

【トピックス】平成28年春の叙勲において、時末光名誉教授が教育研究功勞により瑞宝中綬章を受章されました。また、平成27年9月には氏家教授が日本機械学会エンジンシステム部門において研究業績賞を、平成28年には景山教授、網島教授、栗谷川准教授が自動車技術会にて表彰されました。

栗谷川准教授が日本大学海外派遣研究員に推薦され、平成28年9月より1年間、米国にて研究に取り組まれます。今後ますますのご活躍を祈念いたします。

## 電気電子工学科

【学生数】学部710名 大学院(前期)17名 大学院(後期)3名

【トピックス】1年生の学外オリエンテーション実施○新入学生同士や学生と教員の親睦を深めるために、毎年一泊旅行研修(オリエンテーション)を実施しています。本年度の電気電子工学科のオリエンテーションは、4月16日(土)、17日(日)の二日間行われ、那須千本松牧場と日光東照宮の見学ならびに研修を実施しました。千本松牧場では、ジンキスカン料理を賞味後に、牧場内で班に分かれて、学生生活、勉強方法等について学生と教員が意見交換しました。写真は、千本松牧場で引率教員一同の写真です。二日間の旅行を通して親睦を深めることができ有意義な時間でした。



千本松牧場にて引率教員一同



OBとの意見交換会出席者

OBとの意見交換会を実施○7月7日に校友会と電気電子工学科教員との第12回意見交換会を開催しました。受験生、父母、社会が本学科に求めているものは何か、本学科と他校との違いは何か、受験生がワクワクする電気電子工学(科)とは何か等について意見交換しました。OBの方々から貴重なご意見をいただき、有難うございました。これらの意見を踏まえて、一層魅力のある学科づくりに邁進する所存です。

## 土木工学科

【学生数】学部821名 大学院(前期)20名 大学院(後期)5名

【人事】平成28年4月に中日本建設コンサルタント株式会社から佐藤克己准教授をお迎えしました。佐藤先生は前職では、東日本大震災で液状化の被害を受けた茨城県潮来市の震災復旧・復興プロジェクトの計画立案・施工管理に取り組まれました。本学では地域再生論や施工管理を担当されます。また、鷲見浩一准教授が教授に昇格され、内田裕貴助手が再任されました。

【トピックス】9月13日から14日にかけて平成28年度「生産実習Ⅱ・生産実習Ⅱ(S)」現場研修が実施されました。本研修は、生産実習Ⅰ、Ⅱおよび同Ⅰ(S)、Ⅱ(S)の一環として実施されたもので、企業や公的機関等での実習の体験とともに、代表的な建設現場を視察することによって専門的な知識と技術との関連を学ぶことを狙いとしています。今年の研修現場は、東京外かく環状道路中央JCTと八ッ場ダムの2か所です。参加する学生を、2グループに分けて、1日1現場をそれぞれ視察しました。また、参加者全員で、初日の夕方に宿泊場所の群馬県草津町の研修施設でOBの講演を聴講しました。参加者は、所定の期日までに現場研修報告書を提出することが求められています。



OBによる講演



東京外かく環状道路中央JCTの建設現場

## 建築工学科

【学生数】学部 832 名 大学院（前期）47 名 大学院（後期）2 名

【トピックス】2016 年度日本建築学会技術部門設計競技（課題：「木質材料・木質構造の可能性を最大限に引き出す建築」）において、岩田准教授と鎌田専任講師らによる作品「PATCHWORK - 小型 CLT を継ぎ接ぎするフレキシブルな壁構法 -」が佳作入選を果たしました。他のメンバーは、大学院生の岡田遼君と OB の高橋謙太君（共に岩田研究室）です。本年度の課題では、地球環境への配慮から林業再生と都市の木造化のための規制緩和や新規部材の開発が進められている近年の時勢を背景に、資源循環材料である木材の特性を活かして持続可能な建築物を生み出す実現性の高い新しい木質構造技術や建築システムの提案が求められました。

岩田研究室と鎌田研究室では、国内において大型施設への使用が増加している木質系板材の CLT（Cross Laminated Timber）の利点を様々な規模の建物に展開することを目指し、既存の大型 CLT パネルに代わり人力で運搬可能な小型 CLT パネルの製作や、これを用いた新構法・建材循環システムの提案を行う共同プロジェクトを進行中です。今回の応募作品の内容はプロジェクトの全体構想をまとめたもので、入選 7 作品には大手企業チームが名を連ねる中で、数少ない大学チームとして存在感を示しました。



PATCHWORK



岩田准教授 鎌田専任講師 大学院生の岡田君

## 応用分子化学科

【学生数】学部 709 名 大学院（前期）44 名 大学院（後期）1 名

【人事】平成28年度は昨年に続いて日秋俊彦教授が学科主任に選出され、専攻主任に山田和典先生が任命されました。柏田歩准教授が教授に、木村悠二助手が助教に昇格されました。山田康治教授は平成28年3月に定年退職されましたが、引続き研究所教授として研究と教育に尽力を頂いています。これにより平成28年度の教員構成は教授8名、研究所教授2名、准教授5名、専任講師4名、助教1名で研究室数は14となっています。なお、学科に関する最新情報はホームページをご覧ください。<http://www.ic.cit.nihon-u.ac.jp/>

【トピックス】○2015年12月に中釜達朗教授が「関東工学教育協会賞（業績賞）」を受賞されました。○2015年12月に博士後期課程の諸崎友人君（D3）が第42回有機典型元素化学討論会で優秀講演賞を受賞しました。また、諸崎君の研究成は2月にChem-Stationのスポットライトリサーチに取り上げられました。○2016年3月に土屋侑子さん（B4）が日本海水学会若手会第7回学生研究発表会で優秀賞を受賞しました。土屋さんは、他にも3月の化学工学会第81年会で学生奨励賞、博士前期課程に進学後7月に分離技術会年会2016で学生賞、6月に日本海水学会第67年会において最優秀賞を受賞しました。○2016年3月に山田康治教授の最終講義が開催されました。○5月に博士前期課程（M1）の小柴侑輔君が分離技術会年会2016で学生賞を受賞しました。○8月に博士前期課程（M1）の高木美穂さんが第30回日本キチン・キトサン学会大会でポスター賞を受賞しました。○10月に日本海水学会若手会主催「第3回海水・生活・化学連携シンポジウム」で長嶋恭介君（B4）が優秀ポスター賞を受賞しました。○6月に第57回全日本理工科学生柔道優勝大会（初段の部）で佐光航君（B4）が個人戦で2位になりました。



山田康治教授



受賞した学生達

### マネジメント工学科

【学生数】学部752名 大学院(前期)19名 (後期)4名

【トピックス】当学科では数年前から、学園祭で学科の御神輿を担ぐようになり、OBの校友会マネジメント部会から御神輿の製作や修理代、そしてお弁当等のご支援を頂き、心より感謝申し上げます。

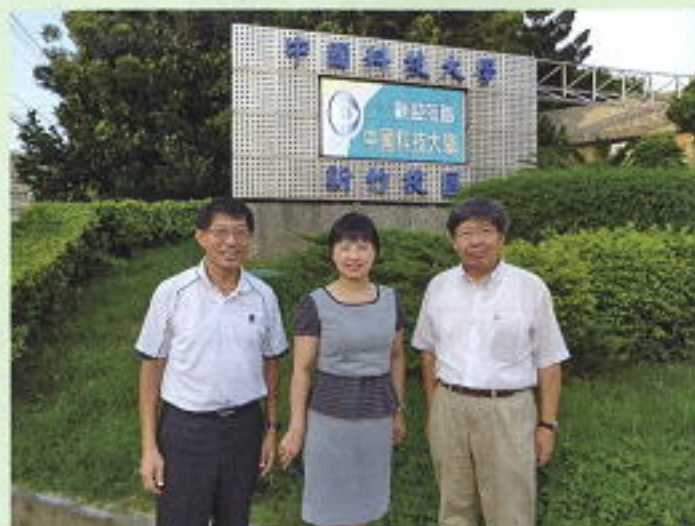
4月の新入生向学外オリエンテーションでは、全員でスマートフォンなどの携帯電話の電源を切って、直接対面でのコミュニケーションを行う、日本初の試みを行いました。その企画が注目され、5月2日にテレビ東京の「ワールドビジネスサテライト」で放映されました。

当学科では学部生の檜垣貴也君が、3月に経営情報学会の第11回学生研究論文発表会、卒業論文の部において最優秀論文賞を受賞しました。また学部生の小串一貴君が、9月に同学会秋季全国研究発表大会にて学生優秀発表賞を受賞しました。

また五十部誠一郎教授が、7月から10月に米国、台湾・タイ・中国などに3ヶ月間、海外派遣研究員として出張され、米国農務省東部研究所や中国科技大学(台湾)等を訪問されました。そして近年恒例となっておりますが、6月には台湾の中国科技大学との交流プログラムを実施しました。



1年生のオリエンテーション



五十部教授の中国科技大学管理学院訪問

### 数理情報工学科

【学生数】学部626名 大学院(前期)27名 (後期)4名

【人事】細川利典教授が学科主任に選出され、専攻主任に西澤一友教授が任命されました。新井雅之助教が准教授に昇格されました。

【トピックス】○古市昌一教授が2015年10月より半年間にわたり、アメリカ・ミシシッピ州立大学、アメリカ・ケント州立大学、ブラジル・サンパウロ大学、オランダ・ユトレヒト芸術大学など世界各国の大学を訪問し、研究活動を行いました。

○The 15th IEEE Workshop on RTL and High Level Testingで細川研究室から発表した論文"A Scheduling Method for Hierarchical Testability Using Results of Test Environment Generation" (Jun Nishimaki, Toshinori Hosokawa, and Hideo Fujiwara)がBest Paper Awardに選ばれ表彰されました。○国際シリアスゲームジャム(Global Applied Game Jam) 2016で大学院生の粟飯原萌さんが所属したチームが、準優秀賞を受賞しました。○2016年9月よりオランダのアムステルダム応用科学大学から2名の留学生が来日し、5ヶ月間、インターン生としてシリアスゲームを日本人の学生と共同で開発します。



Best Paper Award表彰状



Best Paper Awardの表彰式

### 環境安全工学科

【学生数】学部532名

【トピックス】教員・学生共に学外での活躍が相次いだ1年でした。

秋濱一弘教授が日本機械学会において、東海支部賞研究賞を受賞すると共に、学会を代表するにふさわしい技術者として日本機械学会フェローに認定されました。また、学生の活躍として、大学院機械工学専攻博士後期課程1年鈴木圭さん（山崎研究室所属）が、日本エネルギー学会奨励賞を受賞、4年生の由井寛久さんが、日本機械学会関東学生会卒業研究発表講演会にてBest Presentation Awardを受賞しました。さらに、大学院土木工学専攻博士前期課程2年の清水晴希さん（環境安全工学科卒）らは、習志野市内の熱環境を調査し、環境改善策として建物外壁を植物のカーテンで覆う緑化案を、習志野市に政策提案しました。

学科も創設から満6年が経過し、4期生134名が2016年3月に卒業しました。卒業生の進路は、大学院等進学15名、公務員への就職6名、企業への就職111名となり。就職希望者に対し3年連続就職率100%を達成しました。なお2016年4月には新入生131名を迎えております。教員の顔ぶれも強化されました。保坂准教授が、英国Sheffield大学への1年間の海外派遣を終え、2016年3月に帰国しました。2016年4月には永村助教（専門：都市計画・まちづくり）が新しく着任しました。学科も創設7年目に突入、今後の新たな展開が期待されます。



鈴木圭さん受賞の様子



由井寛久さん受賞後の様子

### 創生デザイン学科

【学生数】学部537名

【トピックス】創生デザイン学科の田中遵准教授と学生達のグループ作品「ぶんしんのじゅつ!!」がアメリカ・ニューヨーク JACOB JAVITS CONVENTION CENTERで開催されたINTERNATIONAL CONTEMPORARY FURNITURE FAIR(ICFF 2016) (2016年5月14日-17日開催)で公開されました。出展に関しては、田中先生はじめ、創生デザイン学科の学生、OBら18人が参加し、現地スタッフと協働しながら、設営・展示・来客対応などを行いました。このICFF2016に作品を出展するためには、厳しい基準をクリアしなければなりません。田中先生たちの作品「ぶんしんのじゅつ!!」は昨年のTOKYO DESIGN WEEK 2015 (2015年10月24日-11月3日開催)において、TOKYO DESIGN WEEK 2015 ASIA AWARDS学校作品部門「セミグランプリ」、TOKYO DESIGN WEEK 2015 ASIA AWARDSプレゼンテーション部門「2位」のダブル受賞の栄誉により、ICFF 2016での展示が認められました。



JACOB JAVITS CONVENTION CENTERにて



### 教養基礎科学系

【トピックス】本年度の教養・基礎科学系は29年度4月から始まる新カリキュラムとクォーター制導入について運用方法や時間割の作成に大きな力を注いでおります。また、若手教員を中心に教養・基礎科学系のイノベーションについて熱い議論を重ね、これから5年、10年先の系の形を議論しています。イベントとしては4月新入生歓迎パーティーの開催。9月には避難訓練を実習キャンパスで実施し、大地震の発生を想定して避難経路や避難場所の確認を実際に行い、スムーズに避難できるための問題点などを再確認いたしました。夏のオープンキャンパスでは系としての相談コーナーやキャンパスツアーなどの企画をしております。その他、実習キャンパスでは物理実験棟が外壁塗装を行い、色が変わりました。

【人事】昨年度は3月に4名もの教員が定年退職を迎え、田口政義教授、中西裕一教授、福島昇教授、マイケル・ジナング教授という大きな力が抜ける形となりました。一方、4月に濱田彰助教（言語文化系列）、町田拓也助教（数学系列）、ミッシェル・ジョンソン助教（言語文化系列）という若い力が新たに教養・基礎科学系の仲間入りをいたしました。



新しいカラーの物理実験棟



新入生歓迎パーティーの様子



石川雄貴  
(文理学部・体育日大高)

# 箱根駅伝

第93回

走れ日大!  
113万人の  
仲間と共に



北井拓行  
(経済学部・体育日大高)

箱根間往復大学駅伝競走

協賛 山崎 福野新聞社



祝! 第93回東京箱根間往復大学駅伝競走 87回目出場!

日本大学校友会  
スポーツ振興特別委員会  
<http://www.nichidai-sports.jp>

【日本大学保健体育審議会 所属競技部全34部】

|            |      |        |              |         |
|------------|------|--------|--------------|---------|
| 陸上競技部      | 剣道部  | 空手部    | スケート部        | フェンシング部 |
| 海上競技部(水泳部) | 相撲部  | 体操部    | バスケットボール部    | ゴルフ部    |
| 水泳部        | 弓道部  | 射撃部    | バレーボール部      | バドミントン部 |
| 野球部        | 卓球部  | 重量挙げ部  | レスリング部       | ハンドボール部 |
| ボート部       | 馬術部  | ラグビー部  | サッカー部        | 応援リーダー部 |
| 柔道部        | 自転車部 | ボクシング部 | ヨット部         | 女子サッカー部 |
| 柔道部女子部門    | テニス部 | スキー部   | アメリカンフットボール部 |         |

【写真】山崎 福野新聞社

生産工学部校友会は箱根駅伝を応援します

寄付のお願い 口座番号 00190-7-585685 日本大学校友会スポーツ振興特別委員会

日本大学生産工学部校友会誌「桜生工」

発行：日本大学生産工学部校友会

住所：千葉県習志野市泉町1-2-1

TEL：047-476-1140

FAX：047-476-3510

HOME PAGE：http://www.ne.jp/asahi/nuit/koyukai/

E-MAIL：nuitkoyukai@nippon.email.ne.jp

印刷：株式会社 東工

住所：東京都北区赤羽北2-2-12

TEL：03-5963-5702

FAX：03-5963-5704

編集：日本大学生産工学部

校友会広報委員会